

内弟子としての貴重な二ヶ月 シリヤ・ケルヴィネン



小林道場での二ヶ月の滞在の前に、様々な人々からその内弟子生活の大変さについて折に触れて聞かされてきました。しかし、私は自分自身の先に待ち受けているものをこの目で確かめたい気持ちでいっぱいでした。それに、私はその「大変さ」が本当のことなのか、それともただの噂に過ぎないのか、確かめたいとも思っていました。

た。

内弟子としての二ヶ月を終えてみて言えるのは、確かに、日々の生活は稽古と掃除に追われ、自分の時間がほとんど無く、時には厳しい時もありました。しかし、「厳しさ」というものが内弟子生活のよく知られた面であっても、それはただの一面でしかありません。その反対の面は、内弟子は道場の一員として、場合によっては家族の一員として、歓迎されるということです。時には先生とそのご家族と共に食事を頂くこともあり、茶道や書道の稽古、また温泉という畳の上以外では最も快適な場所に連れて行ってもらったりもしました。

私が道場、また日本国内一般において、最も感銘を受けた点は、その人々の信じられないような親切心と支え合いの心でした。人々は自分自身のために何ができるかと考えるように育つ西洋の多くの社会と比べ、日本では人々は他人のために何ができるか、と考えるように育てられています。日本語の単語を数える程しか知らない状態いると、多くの物事がより複雑に感じられてきてしまいます。しかし、私が助けを必要としているときは、必ず親しくなった人や、さらにはその辺の通行人まで、私を助けてくれ、ほとんどの場合、その助けは私の必要としているもの以上だったり期待以上のものでした。

内弟子となつての貴重な経験は、道場組織、また日本社会一般の内面をのぞくことができたということです。外国人として普通なら見ることが



ができなかった社会や共同体の内面をとらえることは、自分の国や社会についても、違った見方をすることができるようにしてくれました。

最後に、私の内弟子としての二ヶ月の滞在を可能にしてくれた合気道小林道場とむすび基金に感謝したいと思います。



小林先生と弘明先生には彼らの弟子として私を受け入れて下さったこと、また保子奥様と実代子奥様には温かさと親切心をもって私に食事を振舞って下さったことに対して感謝致します。そして、山脇先生とその奥様、また、五十嵐先生とその奥様にも、私を彼らの道場に受け入れて下さり、食事を振舞って下さったことに感謝致します。私が助けが必要な時、いつでも助けてくれた内弟子仲間のディランと、会員の宏美と香子にも心から感謝します。

そして、私の稽古仲間、小林道場の皆さん全てに感謝します。小林道場の私が一番好きなところは、彼らのその前向きで、ユーモアに満ち、熱意を持って稽古に望む姿勢から来る、稽古にとって最良の雰囲気です。ありがとうございました。

